

相模原市政令指定都市移行記念

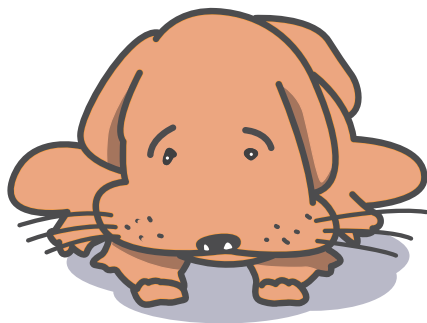
さがみはらの15年後の君へ 提言 2010

世の中のオトナのボクは、これまで目先の誘惑に負けてしまい
足元を見失い、大きな変化を見逃してきたような気がするんだ。
ごめんなさい……クウヘン。
でも、そんなボクから伝えたいことがある！



相模原商工会議所 都市産業研究会

ボクは、 「とさん犬」 と言う…



ボクは、未来のことについて書こうとしている。

でも、未来と言っても、50年や100年先のことでなく、もう少し身近な15年ぐらい先のことを。そして、日本全体や世界についてではなく、ボクたちが住んでいる相模原市とその周辺のことを。なぜなら、遠い未来や広い範囲での予測は世の中にたくさんあるし、遠ければ遠いほど、広ければ広いほど不確実な要素が増えて行き、だんだんと怪しくなるから、それは避けたいと思っている。

未来は様々な仮説を組み合わせて創って行く想像上の空間だ。
だからボクは、なるべく自分で確かめられるような要素を元に仮説を集め、それらにボクの夢を重ねて未来を描こうとしている。

今の世の中では、世界中の様々な情報を様々なメディアから自由に得ることが出来る。でも、それらの情報のうち、何が正しくて、何が自分にとって価値のあるものなのかを見定めることは極めて難しい。

この冊子もそんなメディアの一つだが、もし何か疑問に思ったことがあったら、是非自分の目や耳で確かめて欲しい。
だって扱っている話題は、中学生なら自転車やバスで日帰りができる範囲の事だから。



1 人口減少社会



人が減る時代とは…

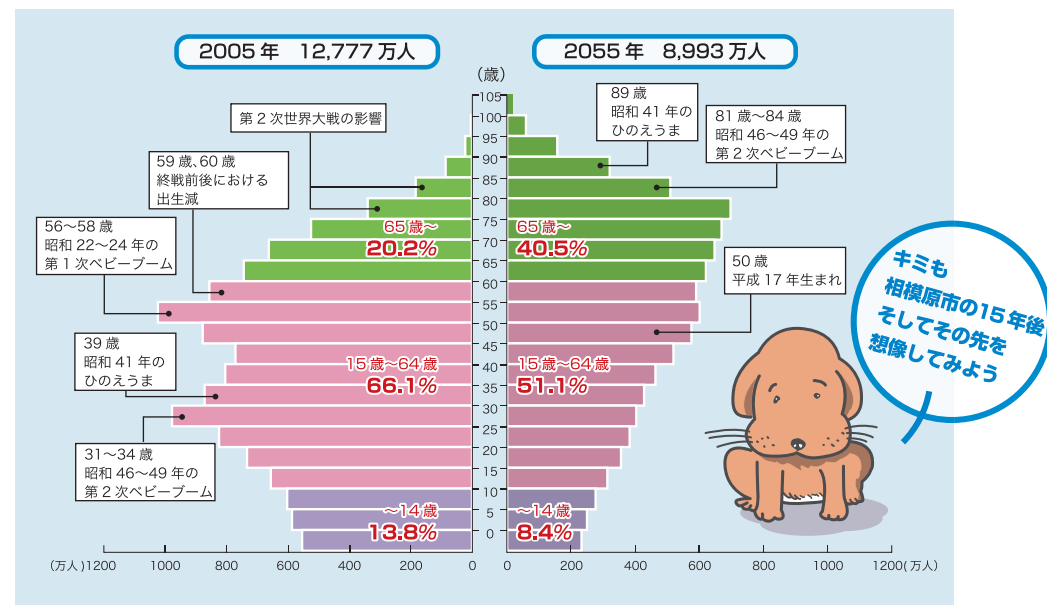
つい最近までは人が増える時代だったんだ。そして私たちのまちは広がっていった。郊外には大型駐車場を完備したショッピングセンターや、住宅地ができた。郊外に住んでいてもマイカーがあれば自由に移動ができた。「人口が増え、まちが広がる＝市街地の拡大」これがまちの発展の象徴のように見えた。しかし、今、日本の人口は減っている。相模原においても、予想では約10年後の平成34年には人口減少が始まる。ちょうど君たちが大人になってバリバリ働くころかな？人口減少の主な原因は、死亡数が出生数を上回ること。そこで忘れてはいけないのが高齢者人口の増加だ。ボクだって10年後は老犬なんじゃない。もしかしてあの世か？

さて、君たちも15年後を想像してみないか？

相模原市においては4人に1人が65歳以上の高齢者になる。

- ・拡大した市街地はどうなる？
- ・僕らにも高齢者にも住みやすいまちとは？
- ・人が少なくなって通勤電車で座れるようになるのかな？

などなど…「人が減る時代」君たちはどんなまちをイメージする？





2 環境革命

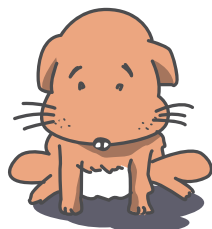
『環境革命』

今、正に、ボクたちは、「環境革命」の時代を生きてる。地球の年齢は46億歳だ。現在のボクたちが暮らしやすい地球の環境は、36億年もの長い長い時を経て、500万種もの生き物が関係し合い、その微妙なバランスの中で創り上げられ、維持されてきた。産業革命以降、人類は、いろいろな技術を作りだし、地球のたくさんの資源を掘り出したり集めたりして使い、物質的な豊かさを追求してきた。その結果、地球の一部を利用する小さな一つの生き物から、地球の自然が作り出せる資源の3倍もの量を、他の生き物のことはあまり気にせず、使い尽くす存在になった。地球の寿命は、あと数十億といわれている。その間、それぞれの生き物が幸せに生きていくためには、限りある資源を大切に使い、他の生き物を思いやり、それらと資源や土地を分かち合って使う社会を人間は築いていくことが必要だ。そのような変革を起こすには、“技術”と“人の心のあり方”を大きく発展させる「環境革命」が必要だ。そのカギは、君たち一人ひとりがにぎっている。

『自然環境と共生するまち』

相模原は、「環境革命」にチャレンジする上でとてもチャンスのあるまち。なぜなら、「自然」が豊かだからだ。生産活動を行う元手になるもののことを「資本」と言う。“資本”には、お金や株、土地や設備などがまずあげられる。そして、これからの「環境革命」の時代により必要とされるのは「自然資本」だ。

それを相模原市はたくさん持っている。まだ活かしきれていないボクたちの身の回りの自然をどう活かし、人の豊かさを作りだせるだろうか。ボクたちの生活に潤いをもたらすことができるだろうか。ここに知恵を絞り、新たな価値を生み出すチャンスに、君たちのまちはあふれている。都会的な豊かさ、自然の豊かさを合わせて楽しめるまち、その共生の中から、新しい製品や産業を生み出し、さらに豊かになっていけるチャンスにあふれるまち、それが相模原。君たちのチャレンジに期待！



3 グリーン・コンパクトシティとは



環境革命が起こると、みんなの生活や住まい方も変わってくる。「持続可能な社会」って、聞いたことあるかな？石油などのエネルギーが枯渇し、地球環境を世界中で監視して、みんなが変化する社会に適合し生き続けるという事だ。地球環境だけではない、2025年にもなると、日本中で人口が減る。今まで人口が増えることを前提に作ってきた街づくりも、このまま同じ考え方の延長線上には決して有るはずが無い。

「グリーン・コンパクトシティ」が今まちづくりの目標になりつつあるのをご存じか？これからの街づくりに欠かせない言葉。人の数が減ると、当然、街はスカスカに空き地や空き屋だらけで病院、役所や学校・図書館、それから君たちの好きなものの購入や楽しいアミューズ施設へ行くのも遠くへ行かなければならなくなる。どこに行くのも自転車や歩いて行けない街は困らないか？君たちのお父さんお母さんがお年寄りになった時は更に大変だ！

相模原はそんな不便なことにならないように、こんなことに気をつけて街づくりを考えることが大事。グリーン・コンパクトシティは自然と省エネルギーを考えて、無秩序に広がらない、人にやさしい街づくりのことだ。

ボクの夢は、4月のさくら祭りのような活気ある市民生活が、日常的に広がったまちになっていることだ。

グリーン・コンパクトシティのまちのイメージ

- 1 → 自然環境、農地を大切に効果的に使う
- 2 → みんなの空間や建築物を大切に利用する
- 3 → 駅周辺に複合機能拠点をつくる(住宅だけでは街は活気が無くなる)
- 4 → 自動車交通利用は毎日使わない生活ができる
- 5 → バスや電車などの公共交通をみんなで使う
- 6 → 楽しめるタウンセンターを目指して盛り上げる
- 7 → 歩ける範囲に区の出張所や幼稚園や保育園、老人のデイサービスセンターや店舗、銀行などがある街
- 8 → 病院や役所、市民ホールや図書館そして住宅の開発などをこれ以上分散させない
- 9 → ばらばらになった街の機能を駅前等を中心に集め直す
- 10 → すぐ近くに林や公園がある子供やお年寄りに優しい生活空間にする

参考文献：海道清信（著）コンパクトシティの計画とデザイン



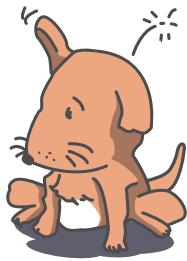
4 品格のあるまちとは

マネのない街並み

人が集まり語らい、そして助け合うその土地にはそこにふさわしい誇りがありそこから生まれる、まちの愛すべき姿がある。これを街並みと呼ぶ。君たちも今までにいろいろなまちを訪れたに違いない。これからも様々なトチ（まち）へ行こう。修学旅行でいった観光地は‘まち’としての風格を感じないか。歴史・文化がまち全体に雰囲気として感じられたのでは？その裏にはまちに住む人々が家の外観のルール化や、祭り等の行事を大切にする郷土愛がある。一方で「この町どこかになんとなく似ている」といったまちも最近も多く見かけられる。

相模原を振り返ってみよう。街並みというのはどこに有るのか？サルマネではない、みんなが愛せる景観を君たちも考えるときだ。それは、相模原の景勝地だけではない。たとえば、相模原駅前のペDESTリアンデッキから南の方向を見てみよう。平らな台地に建つビル群の隙間に美しく津久井や丹沢の山々が見える。相模大野エリアは、先進のファッションやライフスタイルが集積され情報発信拠点へ魅力的街並みに発展するだろう。一方、甲州街道（国道20号線）を八王子方面から進み小原宿を通る。そして相模湖の県立公園を歩いてみたら、山々に囲われてゆったりと湖面を眺めることができる。そこは都市近郊のオアシス。藤野町はどこへいても文化と自然の融合を楽しめる。津久井では、青根という集落があり森に囲われた自然の休息地。ここにある小学校はキムタクの主演ドラマでも登場した本造校舎だ。

相模原の景観は、自然景観を借景にする他の都市にはない、日本人の心をいやす独自性があることに気が付いたらしめたもの！ボクは、こ



の「日本人の心」というのが、換え難い価値観となることを受け合うぞ。

●にほんの里 100 選（朝日新聞社 / (財) 森林文化協会 藤野町佐野川	
●日本の滝百選（緑の文明学会 / グリーンルネサンス / 緑防衛基金） 早戸大滝 津久井町	
●ダム湖百選（(財) ダム水源環境整備センター） 宮ヶ瀬ダム 津久井町	
●日本百名山（深田久弥著） 丹沢山	
●かながわの建築物 100 選（県土整備部建築指導課） 相模川ふれあい科学館 水郷田名 久保田本家 津久井町根小屋 小原宿本陣 相模湖町小原 石井家住宅 藤野町沢井	
●かながわの橋 100 選（県土整備部道路整備課） 高田橋 相模原—愛川町 桂橋 相模湖 新昭和橋 相模原—厚木市 相模湖大橋 相模湖 相模川水路橋 相模原—厚木市 嵐山橋 相模湖 虹の大橋 清川村—相模原 弁天橋 相模湖 小倉橋 城山 勝瀬橋 相模湖 三井大橋 津久井 日連大橋 相模湖 名手橋 津久井 亀見橋 津久井—藤野 青野原大橋 津久井	
●かながわの花の名所 100 選（県環境協会） 相模原麻溝公園 相模原・市役所さくら通り 城山かたくりの里 津久井湖城山公園周辺 相模湖湖畔 陣馬山頂付近	
●かながわの公園 50 選（県土整備部都市整備公園課） 県立相模原公園、相模原麻溝公園 道保川公園 城山湖散策施設 相模湖公園	
●かながわの景勝 50 選（県観光協会） 小倉橋周辺 城山 嵐山からの相模湖 陣馬山 無量光寺	
●かながわのまつり 50 選（県商工労働部商業観光課流通課） 相模の大風まつり 川尻八幡神社の夏祭り 橋本七夕まつり 相模湖湖上祭り 上溝夏祭り 藤野のまつり	



5 安全は、まちの価値

安全な地盤の特徴を知ろう

君たちは相模原の台地が首都圏でも少ない安全な地盤上に在るのを知っているか？東京を中心に埼玉、千葉、茨城の平たい地盤は、古代の川や海の下にあった。普通は、川などの流れが、山からの土砂を運び平野が出来（沖積層（注1））と言うんだ。相模原は河川の砂利を基盤にその上に富士山の火山灰が堆積して出来た台地の上にある（洪積層（注2））と言うんだ。地盤の強さが違う。地盤が固いとなにが良いか？地震の振動は柔らかな地盤に比べ固い地盤ではその揺れをふやさないので建築物が壊れにくいのだ。

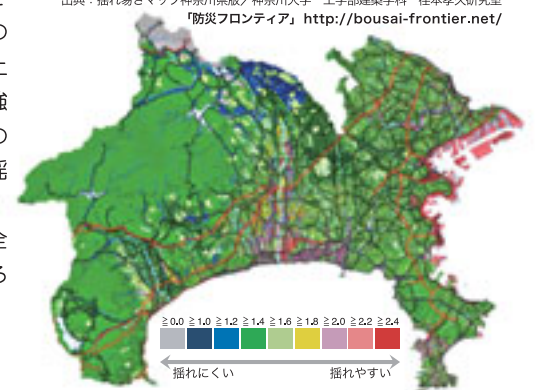
しかし、100%安全はない。超高層ビルは安全と言われているが、大地震が起きた時発生する長周期振動は超高層ビルを長時間揺らし危険な



のだ。それは相模原の地盤とて同じなんだ。君たちは相模原の地盤の特徴を知り、巨大地震にびくともしない建築づくりや街づくりにもチャレンジしてほしい。

神奈川県地盤増幅図

出典：揺れ易さマップ神奈川県版／神奈川県大学 工学部建築学科 荻本孝久研究室 「防災フロンティア」 <http://bousai-frontier.net/>



相模原の治安

相模原市は刑法犯罪件数では、2006 年のデータで、県内で3位。これから人の数が減り地域の付き合い（コミュニティ）が希薄になると、なにが起きるか？犯罪がさらに増え、街路は汚くなり、空き家が増える。おそらくお年寄りや子供達が一番その犠牲になることになるのだ。まちの安全は警察の力だけでなく市民の連携で保つものであると思う。ゲーテッド・コミュニティと言って地区の安全をガードマンや警備システムで守る考え方がある。しかし、安全な私有地で、お互いの塀などを造らず芝生と共有地の中にいろいろな施設からなる、お年寄りや子供にやさしいまちを考え直すまちの形が欲しい。宅配便などは一時預かり機能を持った管理室が地区を見守りサービスする。元気なお年寄りだって守衛さんや子育て相談などで活躍できる。法律や制度だけでない地区の真のコミュニティを提唱したい。まちの中は友人・知人で構成されたまち。郊外立地では「地区全体が一体の敷地に広場を中心に建物建てられる」そんな人（特に子供や老人）にやさしいまちづくりが求められている。

相模原市（神奈川県）の安全情報：火災、交通事故、犯罪 etc 2006 年

安全項目	データ	全国ランク	神奈川県内ランク	建物火災出火件数 [件] : 建造物の火災・出火の件数
建物火災出火件数	138 件	30 位	3 位	交通事故発生件数 [件] : 交通事故の発生件数
交通事故発生件数	4982 件	25 位	3 位	刑法犯認知件数 [件] : 警察が認知した刑法犯罪の発生件数
刑法犯認知件数	11452 件	26 位	3 位	一万人あたりの建物火災出火件数 [件] : 人口 1 万人あたりの建物火災出火件数
一万人あたりの建物火災出火件数	1.97 件	1233 位	17 位	一万人あたりの交通事故発生件数 [件] : 人口 1 万人あたりの交通事故発生件数
一万人あたりの交通事故発生件数	71.01 件	397 位	11 位	一万人あたりの刑法犯認知件数 [件] : 人口 1 万人あたりの刑法犯認知件数
一万人あたりの刑法犯認知件数	163.22 件	284 位	6 位	出典：patmap 市町村情報

注 1）沖積層は地質学的に最も新しい地層。最終氷河期の最寒冷期に、大地は洪積層に覆われ、海面は現在よりも約 120m ほど低かった。発達した米河や河川の下流部に土砂が堆積し、周りの洪積台地よりも一段低い低地を形成してきた地層。平坦で溜地が多い。

注 2）洪積層は更新世に形成された地層全般を指す。沖積層に比べて地盤沈下、洪水、地震災害時の液状化などの被害にあいにくい。また、古くから重要建造物は洪積層が露出している土地に建てられることが多い。また、水はけが良いため、宅地や畑作にも適している（いわゆる山の手）。 出典：ウィキペディア



6 いつまでも住み続けられる安心都市のために

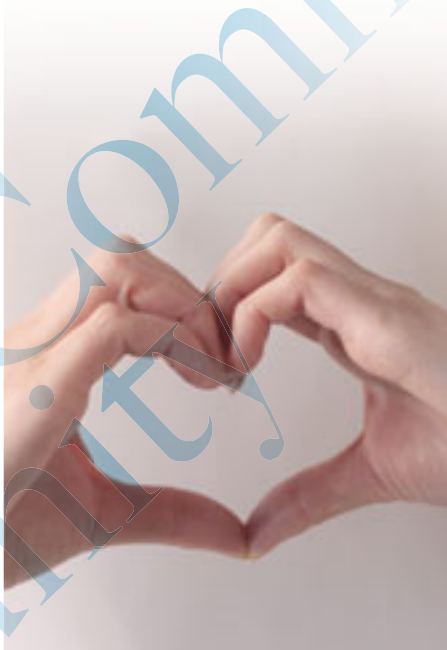


近未来のコミュニティのあり方

ボクはだいぶ老いてきた。君たちも15年後には30歳位だろうか。お父さん、お母さんも60歳位になるだろう。日本全国10年先～15年先はさらにお年寄が増加し、超高齢社会（注）の時代となる。まちなかに多くのお年寄りが増えた社会となる。

子供や若人が少なくなると家の中でも街も社会全体も活気がなくなる。しかし活気とは人の考え方・行動により変化をもたらすことが出来るもの。それは、みんなが率先してコミュニケーションを図り家の中でも、近所のお年寄りと会話を心掛けて地域コミュニティを実現すれば独居老人の孤独死などない明るい地域を築くことが出来るのだ。

みんなも自分の住んでいる地域の中で多くの人とコミュニケーションを進めてほしい。明るい地域づくりはみんなの行動で実現しよう。



地域分散型ケアの構築

（これからの超高齢社会へ向けて）

地域コミュニティのあり方で話したように地域でのみんなの役割があるのと同じに、医療を主体として分散型ケアの構築が必要になってくる。分かりやすく解説すると、あるお年寄りが疾患（病気）によって病院に入院し治療が終わった後、自宅に戻る人、自宅に戻るには無理な人、それぞれの症状により自宅に戻り在宅ケアを受ける人、病院から特別養護老人ホームに入る人、リハビリを行い自宅に戻るために老人保健施設に入る人、まだ療養が必要なため療養病院に行く人このようにそれぞれの症状によってケースが分れる。分散型ケアは、その人に合った暮らしを継続させてあげられる社会の構築を目指す、まちなかの小規模多機能サービス拠点づくりだ。

今までのような人口増加を背景にした多くの福祉や医療を求める人達への対応から、15年後には人口減少や少子高齢社会に直面した時への変化に対する対応が必要だ。それには、今から準備が必要なんだ。

注）高齢化社会という用語は、1956年（昭和31年）の国際連合の報告書において、当時の欧米先進国の水準を基に、7%以上を「高齢化した」人口と呼んでいたことに由来するのではないかとされているが、必ずしも定かではない。一般的には、高齢化率（65歳以上の人口が総人口に占める割合）によって以下のように分類される。

◆高齢化社会 高齢化率 7%～14% ◆高齢社会 同 14%～21% ◆超高齢社会 同 21%～

出典：ウィキペディア



7 物流力と公共交通



物流ハブシティ

「すべての道は相模原につづく」

古代ローマやシルクロードのように昔から「人」「物」「情報」が流れ、集まる場所が繁栄してきた。現代においてもこの単純な理屈はなんら変わることはない。相模原でもこうしたことが起きようとしている。

現在の相模原市はさがみ縦貫道の完成を控え広域連携物流ハブ（中心的な場所）となるだろう。リニア中央新幹線や小田急多摩線延伸の計画が具現化されようとしている。このことは全国からの物流をたった1日で集めることができ、海外を含む日本全国への日帰り旅行を可能に。「時間距離」の短縮というものは、ただ単に便利になるということだけでない。相模原市の持つ大きな「潜在能力」を引き出してくれるのだ。

人の移動は、街づくりの核となる公共交通

手塚治虫の漫画の世界「鉄腕アトム」は子どもだったボくらに夢を与えた。未来に向かって、ボクは君たちにより良いまちの核となる交通の姿を想像し、作り上げてほしいのだ。15年後、ハイブリッドカーや電気自動車は、大いに市内を走りまわり、カーシェアリングが普及、そして世界最高速581km/hのリニア中央新幹線で大阪まで1時間で移動できる。

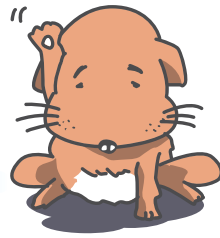
公共交通は、街づくりの核。そしてこの核は便利で住みよい街をつくり、人を呼ぶ。その人々が未曾有の経済効果を発揮する。さらに、公共交通は人にやさしいだけでなく地球にも優しいのだ。

しかし、僕らはそのためにやらなければならない沢山の行動と知恵を絞らなくては、君たちの相模原を魅力的なまちにはできない。君たちが移動し行動することで様々な出会いが生まれ未来が拓ける。





8 地産地消という発想



「農業も！経済も！人も！喜びも！悲しみも！地産地消！」(とさん犬の叫び)

地産地消（地域で調達できるものはその地域で消費）を君たちに勧めたい。地球規模での資源と環境の両方で、限界がわかってきたからだ。

What ?	→ みんなが、我慢(便利さだけを求めず！)をすることを学ぶ。時計の針の基準を変えて、持続可能な速度に戻すことが必要だ。
Why ?	→ 15年後にはますます世界各国の物が手に入れやすくなってくる。しかし、長い距離、物を運ぶということは多くのエネルギーを使って手に入れるという事だ。環境革命で生活の仕方を変えなければいけないことを話したが、それは持続可能な社会を考えなければいけないこと。
How	→ まず、世界を考える前に身近な環境を視野に、自分の責任を果たす。そして、「まず隣より始めよ(注)」という言葉があるように、君たちの生活の場、地域コミュニティが自立していることが最低限必要なのだ。
Method	→ 信用できる地域となることが一番大事だ。相模原市の人間ならとりあえず半分は信用しても良いかなと思えるコミュニティづくりをしよう。
Method 2	→ 自立するために、地域経済の地産地消という仕組みを確立させてはどうだろう。地元で仕事が増えるだけでなく、例えば新鮮な食物が安心して買える。長い通勤時間が無くなれば地域でのいろいろなことにも参加できるぞ。
Conclusion	→ 相模原の君たち同士がお互いを好きになること、そのことが「持続可能な社会」をささえる地域経済の地産地消にもっとも有効ではないか。ガイア（大地の女神）もそうせよと言っている気がする。

注) 身近なことから始めよという意味。

「食と職の地産」

世界食料不足、食料自給率向上、食の安全性への不安など、地産地消の重要性はますます高まっている今こそ、大量生産大量消費の時代に別れを告げ、持続型社会に向けて社会を変えていく格好の機会だ。ファストフードもいいけど、地元の新鮮な食材を使った食を堪能してみないか？幸い、相模原市には近郊農業を営む農家があり、工業を中心に起業家も多い土地柄だ。農産物の地場流通、地産地消の起業、コミュニティビジネス、農商工連携、人と人のつながりによる食の安全と職の創出が活気あふれる地域を創っていくとボクは考える。



9 都市農地の夢



「食料生産としての農地とその他の機能」

・カロリー補給・ビタミン補給 / 精神・身体を癒す風景、匂い、湿度、音、空気、天候激変の緩衝装置等

「相模原の現在の農地」

- ・定められた農業専用地域と住宅地や商工業地に混在する畑作地は「農作業から発生する匂い、音、土ぼこり等々の発生源」。「ゴミの不法投棄場所」でもある。
- ・このような背景から畜産は住宅からはなれた場所で営まれているが尿尿の水源地への影響懸念から莫大な設備投資が求められ、廃業する農家も多い。

「今後の農地は… 15 年後の農業のすがた」

- ・畜産は今まで以上に集約されて、いくつかの農家が共同で畜舎(牧場施設)を運営する。
- ・畑作は専業農家が今までどおり経営している大規模なものと自宅消費用の住民の趣味・余暇の楽しみ自給を兼ねたものに明確に分かれる。
- ・「賃貸家庭菜園」が流行り軒先販売が今まで以上に流行る。
- ・中学校の教育科目に「農業」が復活するため、「学校農園」が必須施設となる。

15 年後の日本では都市近郊の「地面を活用する制度」が見直され、「農」に関係した制度も現実にもなったものとなる。農業を専門に行なう人は非常に限られた人数になるが、小規模な畑作をしていた農地が住民の趣味となるかもしれない。

- ・余暇の楽しみと自給を兼ねた「非農家のための賃貸家庭菜園」が増える。

また、兼業サラリーマンの田畑が整備され、キレイな田畑が増える。これは「農地」を「食料生産場所」だけでなく、地域の「様々な役割を担う空間」として位置づけ、「田畑の状態を維持する」ために自治体やJA(注1)、NPO(注2)をはじめ多くの人々が協力して制度を改めた結果だ。これらの田畑は「家庭菜園ドクター(市職員)」が巡回して、作柄や病害虫の被害防止の指導に当たる。日常の食事に使われる「季節の野菜(旬の野菜)」の作付けが多いが、市内の標高差を活用して収穫時期の長期化、季節のシフトも試行される。温暖化が進み、「旬の野菜」が不明確になってきているなかで、「トラディショナルな食材」を見直す風潮もあり、「品質と安心感」で地元産の食材の需要が多い。企業化したいいくつかの専業農家やJAで働く人(雇用された農業従事者)も多い。

「自然とのコラボレーション」=「農」の世界はまだまだこれからだ。しかし、15 年後にはこのような都市の農地が実現しているかもしれない。

注1) 農業協同組合

注2) 非営利団体で利益の再分配を行わない組織・団体一般



10 森林から宇宙への夢

「森林の保全・再生と活用」

平成19年度より神奈川県では水源環境税が導入され、相模原を含む神奈川の森林は危機的状況から回復しつつある。

森林は、

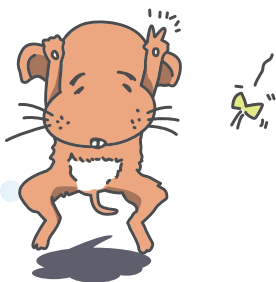
1. 二酸化炭素を吸収し、酸素を供給する
2. 森林に蓄えられ、土壌で濾過されしみ出る水は、私たちを潤す
3. 森林より産出される木材は、住宅・家具など生活の様々な分野で活用される
4. 森林は、そこを訪ねる人々の心や体を癒す

などの、私達の生活に欠かせない役割を担っている。そもそも人間は(旧石器時代の後期ごろまで)森林に住んでいて、狩猟技術の進歩に伴い大型動物を求めて平地に移動し、その後農耕技術を獲得して平地に定住するようになったようなので、人間のDNAには森にいると安心する要素があるのかも？生活圏に森林があり、気軽にそこを訪ねてリフレッシュすることが出来る相模原には、20世紀の呪縛を払拭し、人間らしさを取り戻すヒントが「山」のようにあり、きっとアチコチで古くて新しい持続可能な生活が始まることだろう。

「夜空を見上げて」

澄み切った夜空を眺めたことがあるか？天の川を見たことがあるか？宇宙の果てや、その始まりは…考えたことはあるか？そして、その中で地球や自分の存在を、、、相模原の山麓では、運が良いと天の川を見ることが出来るし、JAXA・ISAS(宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部)があり、世界最先端の宇宙に関する研究を世界中の人が集まって行っている。(日本の宇宙研究は、ほぼ世界で唯一「軍事」を目的に含んでいないので、外に開かれている)と、言うことは、相模原は世界で最も「宇宙に近い・宇宙と繋がっているまち」なカモシレナイ。実は、世の中には分からないことはほぼ無限にあって、私たち人間が分かっていることは・・・ごく僅かしい。そんな人間が作っている社会の常識が突然ひっくり返ったり、世界の富の中心が数百年経って地球を一周したり、、、ほとんどが仮説の上に成り立っている社会だから、むしろ絶対的なことなんか滅多に出会えない。

だから、小さいことにクヨクヨしないで、たまには夜空を見上げて星を眺めて見ないか？それは、石器時代の人間や、ギリシャの哲人が眺めていた空とあまり変わらない筈だ。そこで、自分自身のいのちの大切さや、未来への責任に気が付くかも知れない。



11 商店街再生と

「商店街はコンパクトシティの社交の場」

時が経っても人と人との係わりは不変だ。対面販売による商いは、コミュニケーションを通じて行う販売形式だ。コミュニティに一番大切なコミュニケーションをツールとして行う販売は、コンパクトシティで一層求められる時代になる。人口増加時期は、大量に物売り買いする。時間も出来るだけ短縮しての販売が当たり前だった。しかし、15年後は人口が減るのだ。物は安いにこしたことはない。価格の追求だけの店やセルフサービス専門の店等多種の店があっていい。

しかし、車の危険のない安心して買い物のできる店が、子供や高齢者には求められるだろう。消費者との会話や大規模店には出来ない配達サービスなど、再認識される店や商店街にならなければならない時代となるだろう。ボクは思う。15年後とは言わず、明日からそのような店や商店街を支えていて欲しいと。そのために、商店街はその存在価値を磨き努力するので、君たちもそんな商店街を可愛がって欲しいのだ。



12 津久井スローライフ・エリアの可能性

「津久井地区の未来…大都市を支えるヒーリング・エリア」

スローライフ・エリアの構築

城山・津久井・相模湖・藤野は、新相模原の未来おける重要なライフ・コミュニケーションの場として非常に大きな役割を持っているエリアだ。

これから相模原はリニア新幹線・中央道・圏央道などで結ばれるセンターアクセスの地域となる。一方で、人々のライフスタイルの変化もあいまって、広域で交流する人と人の繋がりとコミュニケーションが重要かつ、増加する。しかし、そのことが大変なストレスも生むことになる。

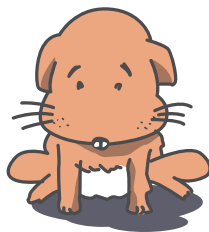
ボクは、そのようなストレス社会には、誰もが・何時でも・自由に選択できる「ヒーリング(癒し)の場」が必要ではないかと思う。その役割として津久井は最高の地域としてお勧めする。

また、君たちが大人になった15年後、君たち自身がスピード時代の現実と未来をしっかりと見極めてほしい。スローライフ・エリアは都会からすぐに到着でき、そこでゆったり出来るといった役割が津久井の未来構想だと考える。ボクも今何をやらなければならないか真剣に考えて実行する！





13 未来の経営者の君へ



自分の夢を自分で創業

君たちはゲーム機・携帯電話を使う？今は当たり前利用しているが、少し前の時代にはなかった。ゲーム機や携帯電話の様に、多くの人に必要とされる製品を作製した会社は大きく成長した。作製した従業員は多くの給料をもらい、独立して自分の会社を作った。

会社の社長になると自分の好きなものを作ることが出来る。多くの収入を得ることが出来るかもしれない。多くの従業員を雇用することが出来、その家族を幸せに出来る。また、その地域を元気にすることが出来る。

君たちも15年後、相模原市で社長になって多くの家族や地域を幸せにしてみないか？きっと出来ると思う。ボクも応援するヨ！

15年後そして今も昔も

お正月、ひな祭り、桜、端午の節句、梅雨、お盆、紅葉、お月見、運動会、クリスマス楽しい1年覚えている？こま回し、タコ揚げ、かるた、百人一首、おはじき、めんこ、あやとり、お手玉、聞いたことある？鬼ごっこ、缶けり、ながうま、めだまやき、泥警、かくれんぼ、楽しかったヨ。

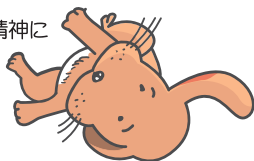
ここ相模原も未来都市としてさがみ縦貫道が物流を支え、リニアモーターカーが走り、デジタル化した環境になっている。未来都市、デジタル化となっても、人の心はデジタルにはならない。アナログの心は5年10年15年と時を経ても基本は変わらず、時を経る事によりその時の大切な部分が成長する。企業も、同じく基本は変わらず、その時代にあった部分が成長していく。

古き心を忘れず、新たな分野を恐れず、世界に目を向け、己を見失わず、進め、未来を先駆ける若い力で、進め、夢をかなえよう若い息吹で。ここ相模原から永久に。

ベンチャー精神に期待

君たちの住む相模原という街は、考えている以上に素晴らしいポテンシャルを持っている。人口減少の時代を迎えてもまだ増加している人口、交通インフラは、道路、鉄道、リニアと今後も相模原に集中している。大学など高度教育機関が市内や近隣に集中し高度な技術や学問を学ぶことができる環境も整っている。通信環境も全国に先駆けてインフラが整っていく。君たちが創造性や、独立心や、自らの能力を発揮できる環境がこの街にはある。あとは自らの創造性や、能力を自ら発見することができる力があるかどうかにかかっている。創造性や能力は野心家にならなければ備わない。ベンチャー企業(創造的、革新的企業)を興すには文字通りアドベンチャー(冒険)は覚悟しなければならないということ。

今後の皆さんのベンチャー精神に期待する。ワン



14 未来の夢を実現する君へ



多種多様な研究可能都市

君たちの街はこれからどのように変化していくのか。あれこれ考えてみると夢が広がっていく。将来を担っていく君たちはどんな事を考え思い描いているのか？例えばボクは、まず身近な所から考える。何故、合併したのか…？折角、自然豊かな4町と合併したのだから、特徴を生かして街を活性化しなくちゃ！

例えば学校の授業で農業体験をし、理科や地理の勉強。農業も経験豊かな高齢者の方々のサポートの元、行えば感謝・ふれあい・思いやりの心が育つ。知識は市内の大学の先生や大学生に教わるのも良いと思う。学んだことを小学生、園児に教えるのもいいし、育てた作物でマーケティングの勉強も出来る。体験こそ成長の第一歩!!こんな風に考えると楽しく学べる事がたくさんある。さあ未来に向けて相模原市のことを考えていこう!!

夢は宇宙制覇

相模原にある資源ってなんだろう？自然？街？歴史？文化？工業技術？人？……。

おかげさまでボクたちの街・相模原は、首都圏に位置しながら神奈川県面積の1/10を占める広い土地を持ち、他の街には無い様々な要素にあふれている。これらの要素を、みんなの柔軟な頭脳を駆使して組み立ててみよう。(例えば、湖面+スポーツで水上競技&レジャー。固い頭で考えるとこの位…)答えは無限大に広がるはず。この答えの数が、可能性の数だ。これに家族や友だち、隣近所の幸せをスパイスとして加え、県域が持つ要素、国が持つ要素、世界が持つ要素を縦横無尽に組み合わせると、世界を救えるようなアイデアや技術、ビジネスが誕生するかも知れない。あっと相模原にはJAXAがあった。ここには宇宙のことや宇宙へ旅立つ手段を研究している人たちが、たくさんいる。こんな要素も加えて考えると、相模原発信の宇宙ビジネスが生まれるかも・・・バーチャル・ゲームの攻略より、ずっと楽しいぞ！

人の集まるまちを！

大きな世の中の変化、グリーン・コンパクトシティや地産地消・交通網の整備など、15年後の相模原って沢山の仕事がいっぱい浮かばないか？リニアモーターカーを乗りこ国内だけでなく海外から観光客が来てくれないかな？相模原産の野菜やお肉を主にした商店やそれをウリにした飲食店なんてどう？SC相模原とプレッサ相模原がJリーグ入りして、相模原ライズがX1リーグのトップになっているかもしれない。スポーツイベントにより人が集まれば商売も生まれそう。流行や仕事の発信を相模原からおこない、出かけて行くのではなく人が集まる街を作ろう！ボクは頭が固くなってきたので、君たちに考えてほしい。君たちは街の財産だ、そう相模原の財産なのだから。

「水」を相模原の武器に！

食事、洗濯、風呂…毎日の生活に欠かせない「水」。相模原市が内陸工業都市として発展したのも、この「水」を抜きに語れない。水利の悪かった相模原の水需要を支えたのが、津久井地域の水ガメである相模湖・奥相模湖・津久井湖だ。さらに宮ヶ瀬湖が加わり、相模原市は神奈川の重要な水源基地となった。昔の相模川には帆かけ船も行き来していた。

他の地域にはない、この「水」を武器にして、水上レジャーやトライアスロンなどのスポーツ、そしておいしい天然水など…君たちのたくましい発想力で「水産業」や「水ブランド」をつくって全国に発信してみないか！可能性は無限に広がってくと思うヨ。



終わりに

君たちのおじいちゃん、おばあちゃんが15歳くらいの頃(1950年頃)、まだ日本は経済的に貧しく、まさか30年後に世界第2位の経済大国となることは誰も予想出来できなかった。

その1980年頃君たちのお父さん、お母さんが君たちと同じくらいの頃かな？30年後に地球環境、人口減少が社会問題化していることは予想できなかった。

未来は現在の延長線上にあるとはいえ、今また、新たな時代のターニングポイントにあるように感じる。ボクたちは相模原の未来の明るい展望と願望を君たちに託して「15年後のメッセージ」とさせてもらう。

とさんけん

都産研とは

(僕たちの「とさん犬」はここからきています)

都市産業研究会の略称で、相模原商工会議所の中にある研究会です。会員が集まり、相模原市の産業基盤や街づくりについて、広く調査・研究して、産業人の立場から市の将来を創造、提案、支援を行う集まりです。様々な仕事の人たちが自由に発言し、より良い相模原にする為に毎月集まっています。現在は自立都市を目指した産業やまちのありかたを研究中です。

この内容に関するご意見やご質問は、下記までお寄せ下さい。

著 作：相模原商工会議所 都市産業研究会

初 版：2010.04.01

編集長：中嶋幸夫

会 員：中村昌治・原保美・中嶋幸夫・白井憲二

小野弘・平栗文夫・八木千露・長崎克央

吉田修一・荒井達雄・安藤悦郎

稲場久二男・井上栄次・浦上裕史

唐澤章三・小島明・櫻内國富

清水紳一郎・白井一郎・杉岡芳樹

高木明・高木幸夫・田口譲享・武内英雄

中山秀男・新津裕史・西浦佐知子

西野清一・萩原理介・原正弘・古橋裕一

八木大二郎・山口浩・山田シズエ

渡邊敦・渡邊知雅子

(2010.03.31 現在)



相模原商工会議所 都市産業研究会

〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3

TEL(代表) 042-753-1315 (担当) 042-753-8131 Fax042-753-7637

<http://www.tosanken.net/>